Vol.7　　発行日　令和7年8月

岡山県教育庁　人権教育・生徒指導課

生徒指導 Leaflet @ OKAYAMA

リーフ

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

授業の中での生徒指導②

生徒指導の実践上の４つの視点を持って授業をすれば、「授業に内在化した生徒指導」を行うことができますが、そのために「新しいこと」や「特別なこと」をしなければならない訳ではありません。

普段の取組を「生徒指導でもあるのだ」と意識し、次は「意図的に組み込む」だけなのです。

岡山県教育庁
人権教育・生徒指導課

〒770-8570
岡山県岡山市北区内山下２－４－６
Tel:086-226-7589　Fax:086-224-2134

コラム　人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

生徒指導で授業を語ることの良さ

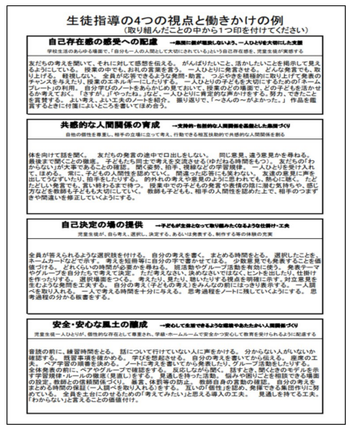
授業について「生徒指導の視点」を用いて語り合うことには大きなメリットがあると思っています。例えば、

①立場や経験の違いを超える「共通言語」になる

「授業公開（研究）」を教科の視点で見たり協議したりすることを主としながら、時には「生徒指導の視点」から考えてみるのはどうでしょう？そんな場があれば、小学校（幼稚園など就学前教育）の先生方も、中学校や高等学校の授業研究会にだって参加し、意見が言えます。校種や教科、経験年数など、様々な「壁」を超える可能性があるのでは？

②毎日、少しずつ積み上げることができる

授業は年間約200日、一日最大何コマも行われます。授業に「実践上の４つの視点」を込めるのは、一単位時間に一つの視点で十分。授業はなんと言っても教科の目的を達成することが大切ですから、そこに少しだけ生徒指導の味付けを加え、何度も繰り返せば良いのです。無理なく取り組める。これも日々の授業で取り組むことの良さでは？


生徒指導の4つの視点と働きかけの例
（取り組んだことの中から１つ印を付けてください）

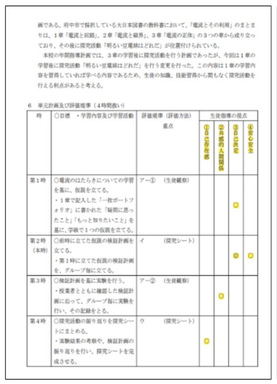
自己存在感の感受への配慮　―自己に自信が持てないような、一人ひとりを大切にした実践

共感的な人間関係の育成　―支持的・肯定的な人間関係を基盤とした教室づくり

自己決定の場の提供　―子どもが主体となって取り組みたくなるような仕掛け・工夫

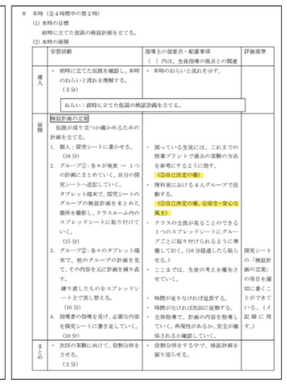
安全・安心な風土の醸成　―安心して生活できるような規律やあたたかい人間関係づくり

実際に、学習指導案に教科の視点に加えて生徒指導の視点も明記して授業を公開している地域や、授業参観者の側も生徒指導の視点で見るためのシートを持って参観し、その気付きをもとに研究協議を行うという工夫をしている地域、４つの視点に当てはまりそうな手立てをリスト化して教職員で共有している学校もあります（図参照）。その地域では、日頃から職員室にひとつの授業をみんなで話し合う雰囲気が満ちていました。「生徒指導で授業を語る」って、様々な可能性を感じませんか？（髙橋）


画である。県中市で採択している大日本図書の教科書において、「電流とその利用」のままでは、１単「電流と回路」、２単「電流と磁界」、３単「電流の正体」の３つの単から成り立っており、その後に探究活動「明るい豆電球はどれだ」が位置付けられている。
本校の中間総括評価では、３単の学習後に探究活動を行う計画であったが、今回は１単の学習後に探究活動「明るい豆電球はどれだ」を行う変更を行った。この内容は１単の学習内容を習得していれば学べる内容であるため、生徒の知識、技能習得から関もなく探究活動を行える利点があると考える。

6　単元計画及び評価規準（４時間扱い）

時	○目標　・学習内容及び学習活動	評価規準（評価方法）重点	生徒指導の視点 自己存在感の感受	共感的人間関係の育成	自己決定の場の提供	安心な風土の醸成
第１時	○電流のはたらきについての学習を基に、仮説を立てる。 ・１単で記入した「一枚ポートフォリオ」に書かれた「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」を基に、学習で１つの仮説を立てる。	アー②　（生徒観察）			○	
第２時（本時）	○前時に立てた仮説の検証計画を立てる。 ・第１時に立てた仮説の検証計画を、グループ毎に立てる。	イ　（探究シート）			○	○
第３時	○検証計画を基に実験を行う。 ・授業者とともに確認した検証計画に沿って、グループ毎に実験を行い、その記録をとる。	アー②　（生徒観察）		○		
第４時	○探究活動の結果から考察を探究シートにまとめる。 ・実験結果の考察や、検証計画の振り返りを行い、探究シートを完成させる。	ウ　（探究シート）	○			


※　本時（全４時間中の第２時）
（1）本時の目標
前時に立てた仮説の検証計画を立てる。
（2）本時の展開

	学習活動	指導上の留意点・配慮事項 （ ）内は、生徒指導の視点との関連	評価規準
導入	・前時に立てた仮説を確認し、本時のねらいと流れを理解する。（３分） ねらい：前時に立てた仮説の検証計画を立てる。	・本時のねらいと流れを示す。	
展開	検証計画の立案 ・仮説が成り立つ論かめるための計画を立てる。 １．個人：探究シートに書き出す。（10分） ２．グループ②：各々がプレゼン → １つの計画にまとめていく。自分の探究シートへ出足していく。タブレット端末で、探究シートがグループの検証計画案をまとめた動画を撮影し、クラスルームへのスプレッドシートに貼り付けていく。（15分） ３．グループ②：各々のタブレット端末で、他のグループの計画を見て、その内容を元に計画を練り直す。練り直したものをスプレッドシートとして直し替える。（20分） ４．指導者の指導を受け、必要の内容を探究シートに書き足していく。（10分）	・周っている生徒には、これまでの授業プリントで過去の実験の方法を参考にするように指す。 （自己決定の場） ・教科書における４人グループで活動する。 （自己決定の場、安心・安心な風土） ・クラスの全員が見ることのできる１つのスプレッドシートにグループごとに貼り付けられるように準備しておく。（10分経過したら貼り出せる。） ・ここまでは、生徒の考えを優先させていく。 ・時間が足りなければ延長する。 ・時間が余れば次回に延期する。全体指導で、計画の内容を指導していく。再現性があるか、安全が確保されるか確認していく。	探究シートの「検証計画の立案」の項目を適切に書くことができている。（イ記録に残す。）
まとめ	・次回の実験に向けて、役割分担をさせる。（２分）	役割分担をするやり、検証計画を振り返らせる。	

人権教育・生徒指導課のホームページもご覧ください。
https://www.pref.okayama.jp/soshiki/350/

Q.「実践上の4つの視点」を踏まえた取組とは、具体的にどんな内容ですか？

特別なことではない「内在化した生徒指導」

A．Vol.6では授業に内在化した生徒指導を行うためには、「生徒指導の実践上の４つの視点」（表参照）を持ちながら授業を行うということをお話しました。しかし、これは何も「新しいこと」や「特別なこと」をすることを求めているのではありません。

実は、皆さん既に行っておられるのです。

例えば、小学校の先生方が活用される児童生徒の「ネームプレート」があります。授業中、おそらく最初に発問に応答した子の答えは称揚しつつ板書をします。では、次に指名した子が、前の子と同じ内容を答えたらどうしますか？当然、「同じだね」と認めてあげますが板書はしないでしょう。もちろんそれで良いのですが、授業の最後では、最初の子は答えが板書に残っているので、自己存在感を得ますが、二人目の子は同じ答えを言っているのに、少し違った気持ちになるかもしれません。

表　生徒指導の実践上の４つの視点
自己存在感の感受への配慮
共感的人間関係の育成
自己決定の場の提供
安全・安心な風土の醸成

では、どうするか？一人ひとりの自己存在感を大切にしている先生であれば、きっと「同じだね」と言いながら、その子（最初の子も）の「ネームプレート」を貼ってあげるのではないでしょうか？たったこれだけなのですが、これでどちらの子も自己存在感を得ることができます。

また、授業中の「グループ協議（話し合い）」は、話し合うことで考えを広げ、深めるための教科指導上の手立てであると同時に、仲間と話し合うことで共感的人間関係を育んだり、自己存在感を感じさせたりする生徒指導上の手立てでもあるのです。

まず普段の実践を「生徒指導の視点」に当てはめてみる

普段の工夫を生徒指導として捉え直す

『学習指導要領』が目指す、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、先生方は日々の授業の中で様々な工夫や配慮をされていると思います。その工夫や配慮を「生徒指導の実践上の４つの視点」に当てはめて捉え直してみる。まずはそこから始めればよいのです。

分かりやすい授業のめあてを提示するのはどの視点？授業の冒頭に前時の復習から行うのはなぜ？もちろんそれらは本時の教科としてのねらいを達成するための手立てなのですが、生徒指導として考えたらどうか？まずはそこからです。

『提要』のダウンロードはコチラ

そうすれば必ず次に、生徒指導の視点を踏まえた工夫や配慮を「意図的に組み込む」ことにつながるはずです。生徒指導で授業改善を進めることもできるのです。

４つの視点に留意した働きかけを日々の授業で行ってくれる先生は、きっと児童生徒には温かく、自分のことを大切に考えてくれている存在として、身近に感じることでしょう。これが『提要』の目指す「発達支持的生徒指導」（＝基盤）なのです。

自己存在感の感受への配慮

例）「ネームプレート」の活用、全員が応答できる発問・助言、つぶやきへの注目
どんな発言も取り上げる、どの場面でどの子を活躍させるか事前想定　等

共感的な人間関係の育成

例）友達の意見をうなずきながら聴く、言い終わるまで待つ、一人一人を褒める
常に子どもの人間性を認める、間違った応答も笑わない（否定しない）　等

自己決定の場の提供

例）選択場面の設定、対立意見を生む発問、一人調べの時間確保、視点の明確化
考える時間の十分な保障、思考過程の分かる板書・ノート　等

安全・安心な風土の醸成

例）めあての工夫や見通しを持たせる支援、教師との信頼関係づくり、
多様な考えや意見が尊重されるような人間関係づくり　等

図　授業に内在化した生徒指導の実践上の４つの視点の例

多様な価値観に触れることは、教師も必要

当てはまる視点はひとつではなく、多様

話し合うことで、指導の視点や手法が増える

図には「生徒指導の実践上の４つの視点」に当てはめた取組を例示しています。しかし、これはあくまでも例示に過ぎません。児童生徒の発達段階、教科の特性、学習集団の状態などで、同じ内容でも異なる視点に位置付く場合もあるはずです。校内で是非、互いの工夫を「生徒指導の実践上の４つの視点」で話し合ってみませんか？「あの手立ての狙いは…」「あの工夫の意図は…」きっと、新たな気付きがあるはずです。そんな「生徒指導の話題」で溢れる職員室にしたいものです。

POINT

「授業に内在化した生徒指導」を行うために

① 普段の授業実践を「生徒指導の視点」で捉え直してみる

② 児童生徒の実態や教師の思いを「生徒指導の視点」に込め、意図的に組み込む